

支所長 齋藤正雄

## 北海道支所

### 創立20周年を迎えて

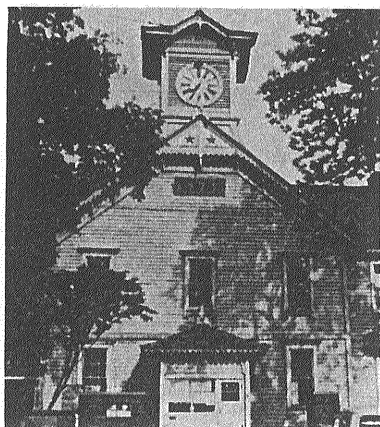
北海道支所長 齋藤正雄

北海道支所が創立されてから 本年8月1日で満20年になるが 創立当初より職を奉じている私にとっては感概無量のものがある。この機会に創立当時の思い出をいささかでも回顧してみたい。

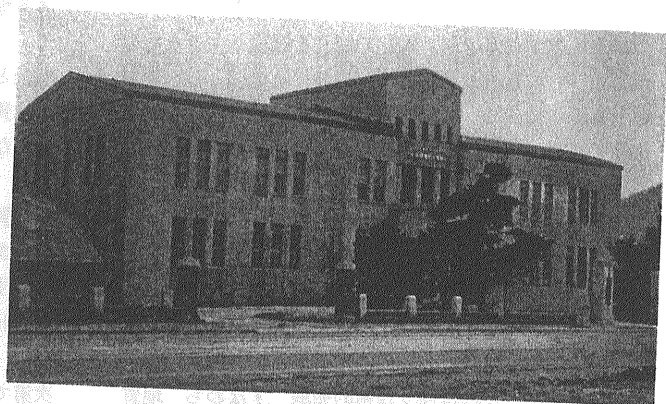
第2次大戦が終わって わが国の領土が大幅に削減され 国民が虚脱混迷状態におちいていた頃 日本再建の道は産業経済の復興以外になく 鉱業を含めた広い意味での工業の振興開発に期待が持たれた。 狹隘な日本領土内では 重要鉱産資源を埋蔵する北海道が にわかに脚光を浴びるに至った。 当時 北海道総合開発委員会は北海道知事に次のような答申書を出している。 すなわち 本道に從來知られている各種工業資源の開発にはできる限り高度の科学技術を導入して その資源としての利用価値を増大躍進させること 未知未開発鉱産資源をできる限り早急明確に実態を把握して その開発を促進させる必要がある ということである。 昭和23年に 道立工業試験場にいた私どもは田中知事と直接意見の交換をなし「本道の基本的地質調査ならびに地下資源の開発は 大乗の見地から国立試験研究機関である地質調査所において強力に推進すべきである」との結論に達し 昭和23年8月1日付で地質調査所北海道支所が誕生した。

当初は 諸般の事情もあって その機構施設など満足すべきものではなかったが それぞれの分野で意欲的に業務を遂行し 昭和26年に設置された北海道開発庁の本道総合開発の一翼をも担うようになった。 その後 5万分の1地質図幅 金属非金属鉱床 石炭石油資源等の調査研究が急速に進展し 技術部門の支援もあって 本道の地域開発のために大きな役割りを果たしてきた。

創立以来20年を経て 北海道支所は関係官庁 学会 業界などと密接な連絡を保ちつつ それぞれの分野で重要な位置を占め 海外技術協力の面でも幾多の貢献をしている。 今日 支所は5課 6調査研究室 6系の組織をもち 43名の人員と多くの近代的研究機器を備えているが 今後さらに新分野開拓の体制を整え 社会の要請に応えたいと願うものである。 今後とも 大方のご理解とご高配をお願いする。



札幌時計台



地質調査所北海道支所